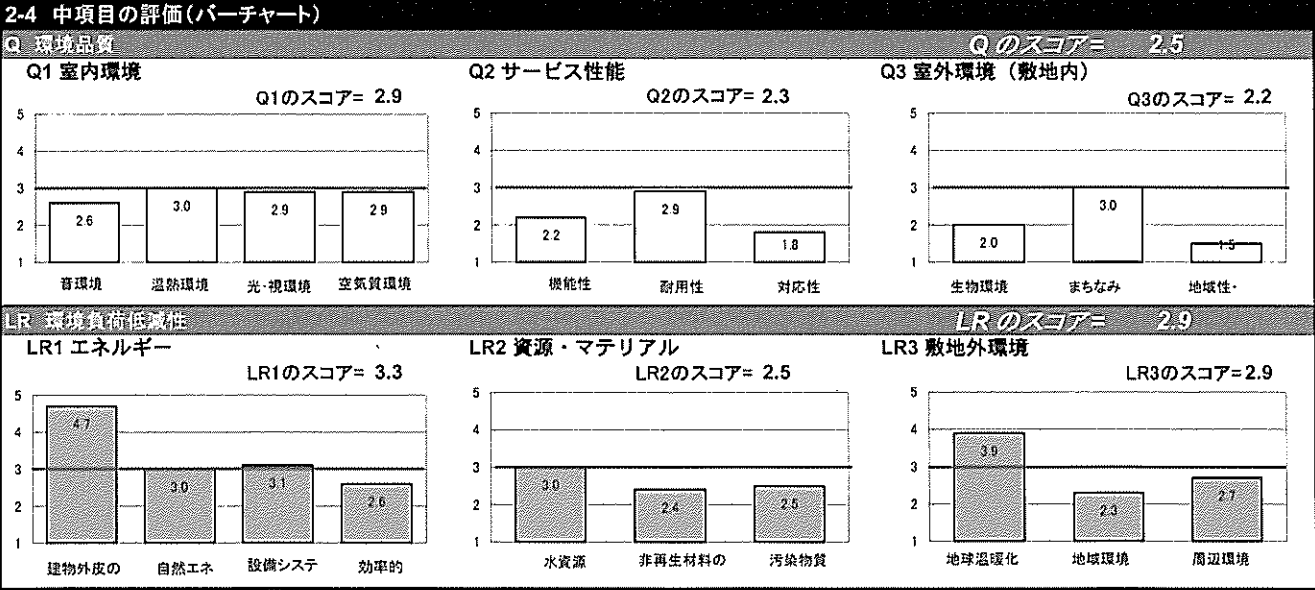
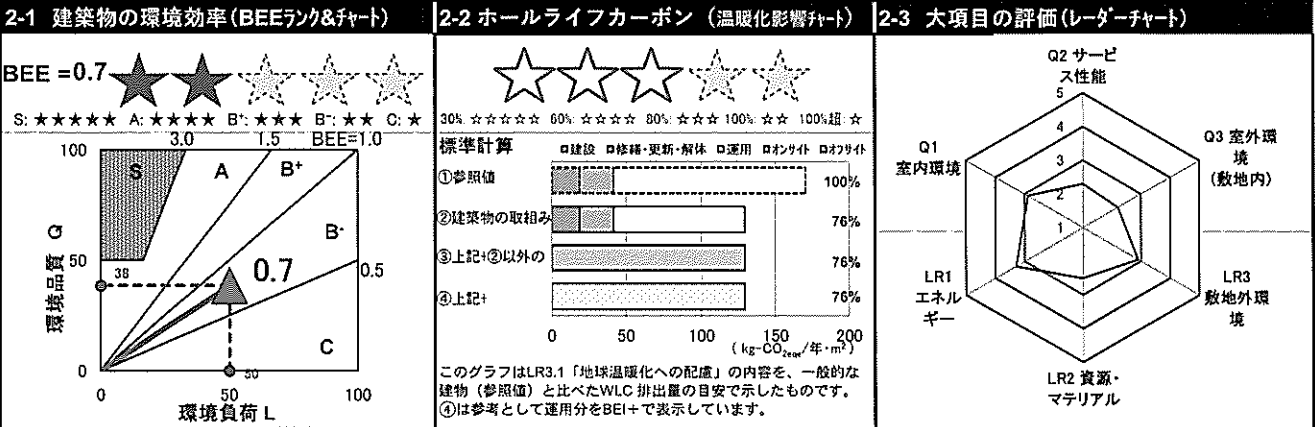


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ビジネスホテル京都福知山	階数	地上10F
建設地	京都府福知山市土師宮町二丁目21	構造	RC造
用途地域	準工業地域・法22条区域	平均居住人員	308 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年11月 予定	評価の実施日	2025年4月11日
敷地面積	4,427 m ²	作成者	案総合計画 高木
建築面積	493 m ²	確認日	2025年4月11日
延床面積	3,643 m ²	確認者	案総合計画 高木



3 設計上の配慮事項		
総合	建物の維持管理のしやすさ、長寿命化、省エネルギー性能の確保、地域景観への配慮	その他 特になし。
Q1 室内環境	遮音等級T-1の冊子を採用し、室内環境へ配慮した。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い配管材を採用し、建物の長寿命化に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)		敷地内に緑地を設置した。
LR1 エネルギー	LED照明を使用する事でエネルギーへ配慮した。	LR2 資源・マテリアル 躯体と仕上材が容易に分別可能なものとした。
LR3 敷地外環境		適切な量の駐車場の確保

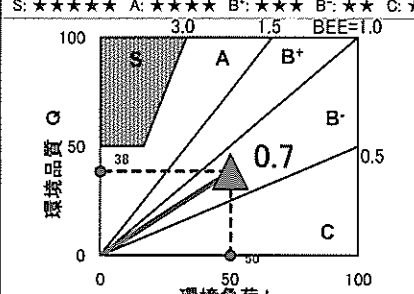
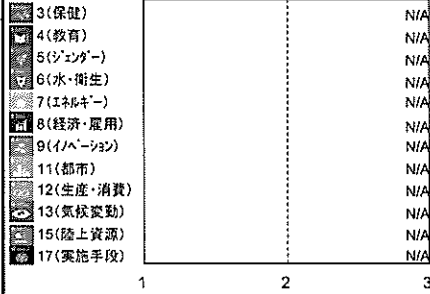
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ビジネスホテル京都福知山	階数	地上10F
建設地	京都府福知山市土師宮町二丁目21	構造	RC造
用途地域	準工業地域・法22条区域	平均居住人員	308 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年11月 予定	評価の実施日	2025年4月11日
敷地面積	4,427 m ²	作成者	案総合計画 高木
建築面積	493 m ²	確認日	2025年4月11日
延床面積	3,643 m ²	確認者	案総合計画 高木

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価結果(レーダーチャート)
BEE = 0.7 ★★★★★ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 	標準計算 ①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²) ②建築物の取組み 76% ③上記+②以外の 76% ④上記+ 76% このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEE+で表示しています。	

2-4 中項目の評価(バーチャート)			
Q 環境品質			
Qのスコア= 2.5			
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)	
Q1のスコア= 2.9	Q2のスコア= 2.3	Q3のスコア= 2.2	
音環境 2.6	機能性 2.2	生物環境 2.0	
温熱環境 3.0	耐用性 2.9	まちなみ 3.0	
光・視環境 2.9	対応性 1.8	地域性 1.5	
空気質環境 2.9			
LR 環境負荷低減性			
LRのスコア= 2.9			
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	
LR1のスコア= 3.3	LR2のスコア= 2.5	LR3のスコア= 2.9	
建物外皮の 4.7	水資源 3.0	地球温暖化 3.9	
自然エネ 3.0	非再生材料の使用削減 2.4	地域環境 2.3	
設備システム効率化 3.1	汚染物質回避 2.5	周辺環境 2.7	
効率的 2.6			

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
建物の維持管理のしやすさ、長寿命化、省エネルギー性能の確保、地域景観への配慮	特になし。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
遮音等級T-1の冊子を採用し、室内環境へ配慮した。	耐用年数の長い配管材を採用し、建物の長寿命化に配慮している。	敷地内に緑地を設置した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明を使用する事でエネルギーへ配慮した。	躯体と仕上材が容易に分別可能なものとした。	適切な量の駐車場の確保

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される